

秀 賞



可能性を信じて

新潟県上越市立城西中学校

三年 柳 澤 綾 音

私には後悔していることがあります。なんで二年生の時にもっと彩花とテニスしなかったのだろう。なんて無駄な時間を過ごしてしまったのだろう。試合で勝つ喜び、楽しさ、もっと味わいたかった。今なら、どんなきつい練習も喜んでやれる。でも、もう終わり。私はテニスを引退したんだ。

中学生になって私はソフトテニス部に入部しました。兄たちがテニスをしていた影響で、テニス部に入るのは自然なことでした。本格的な練習に入ったのは、三年生が引退した夏からです。同じ一年生の中では、三番手くらいの力があつたと思います。新入戦の頃には来年の団体メンバーになれると思っていました。でも冬になって気づくと、いつの間にか皆に越されていました。いえ、越されていることにも気づかないくらい、練習をまじめにやらなくなっていました。どうやったらうまくいくかとか、いろいろ考えながら練習すればいいのに、そんなことは何もせず、何も考えずにやっていたのだと思います。上手な人はペアも固定されていて、どんどん相手との絆を深めながら練習を進めていきました。

一方、私は練習のたびにペアが変わりました。気持ちも通じるわけはなく、やる気もそがれていきま

した。不思議なもので、部活動がうまくいかないと、他の学校生活もうまくいかなりました。ちょっとしたことでもイライラして人に当たるようになり、いつも誰かのせいにして、友達ともしょっちゅう喧嘩しました。私のせいでその場の雰囲気が悪くなっ

てしまったことあつたと思います。私は部活動をやめよう、と思つて顧問の先生に相談しました。先生はしばらく休んでそれからどうするか考えようと言ってくれました。今まで嫌々参加していた部活動に行かず、早く帰れるようになった私は、気持ちがつきりしたのを覚えていません。でもそれは長くは続きませんでした。何もしないということがこんなにも寂しいことなのかと感じるようになったのです。間もなく私はテニス部に戻ることに なります。

中学校生活最後のペアは、小学校の頃から仲の良かった彩花でした。やっと毎回変えられることのないペアと組めた喜びを感じながら二人で練習をしました。地区大会の目標は緒戦に勝つて二日目に進むことでした。そういう目標を持ってはいましたが、実際はそんなこと無理だろうな、でも行けたらいいな、くらいにしか思つていませんでした。しかし、一試合勝つたびに、次も勝ちたい、またその次も勝ちたいという気持ちがどんどん出てきて、いつの間にか私たちは二日目に進んでいました。彩花や友達、部員みんなの声援のおかげで目標達成できたのです。親はもちろん、私たち自身がこの結果に驚きました。二日目の一試合目に敗れた私たちは引退が決まりました。まだ勝てる、あきらめるなど何度励ましあつたでしょう。最後は私のミスで負けてしまいました。練習に真剣に向かった時間の違いだったのではないかと思います。

本当に部活動に打ち込める時間は短かつたと思

ます。先生、ごめんなさい。そして私の悩みを聞いてくれてありがとう。考える時間を与えてくれたこととで、テニスを心からやりたいと思えました。

後悔は尽きませんが、その代わり得たものもあります。それは、人は変われるということです。私は試合で勝つなんて思つてもいませんでした。口ではそう言つていても、心の中ではそんなの無理だ、と言つている私がありました。でも、その私が「県大会」を意識し、そこへ進めるようにがんばることに頑張ることをしたので。試合後、私は彩花と話しました。もっと早くペアを組んで二人で一生懸命練習したかったと。そうしたらもつと上の大会へ進むこともできたかもしれない。そんな欲が私の中に芽生えてきたのは驚きでした。

これから私は受験生として頑張ります。今までは勉強は面倒くさい、楽に生きたい、今が何事もなく通り過ぎればいい、と考えていました。そのくせ点数はある程度取りたい。変な見栄を張つている私があります。進学校と呼ばれるところには行かなくてもいい。けれど高校に行かれないっていうのは嫌だ。バイトもやってみたい。オシャレして高校生活を楽しみたい。でも追試を受けたり補習を受けたりしたくはない。都合の良いことばかり考えている私がい

ます。望むことを実現するにはがむしやりに一生懸命することが必要だということを、私はテニスを通して学びました。そして一生懸命は人を変えることができる、ということも。可能性はたくさんあります。

自分の力はこんなものだと決めつけずに、私にも気づかない、思いもよらない自分に十年後、会えるかもしれない。わたしはそれをとても楽しみにしています。